〈大和・雪のしじま〉1992年　後藤純男美術館蔵

後藤純男美術館開館15周年記念

画業60年

後藤純男展

Goto Sumio

2012年1月2日（月・祝振）～1月25日（水）

そごう美術館［横浜駅東口・そごう横浜店6階］

開館時間：午前10時～午後8時　＊1月2日（月・祝振）は午前9時30分開館　＊入館は開館の30分前まで

入 館 料：大人900（700）円、大学・高校生700（500）円、中学生以下無料

＊消費税含む　＊（　）内は前売および20名さま以上の団体料金
＊前売券は、そごう美術館、またはセブンイレブン、ローソンチケットにてお取扱いしております。
＊そごう美術館での前売券販売は2011年12月28日（水）までとなります。
＊障害者手帳をお持ちの方、およびご同伴者1名さまは（　）内料金にてご入館いただけます。

主催：そごう美術館、読売新聞社　後援：神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会
協力：後藤純男美術館　協賛：そごう・西武

SOGO
横浜
電話 045(465)2111 大代表
www.sogo-gogo.com

〈雲海黄山雨晴〉1984年　後藤純男美術館蔵

後藤純男は1930（昭和5）年、千葉県東葛飾郡木間ヶ瀬村（現・野田市関宿）の無量寿院に生まれました。真言宗住職であった父親の跡を継ぐため13歳から僧侶としての修行を始めますが、絵を描くことが大好きだった後藤はその思いを断ちがたく、山本丘人、田中青坪らに師事し日本画を学びます。卒業後は教職を続けながら師の青坪が所属する日本美術院（院展）へ出品し、ついに1952（昭和27）年22歳の時、念願の再興第37回院展に初入選を果たしました。ちょうどこの頃修行のために制作から離れざるを得なくなった後藤は「どうせ苦労するなら好きな道でしろ」という父親の言葉で意を決し、仏道を捨て、さらに教職も辞して画業に専念します。以来、日本美術院の重鎮としてのみならず、我が国を代表する日本画家のひとりとして活躍し、1997（平成9）年には後藤純男美術館（北海道空知郡上富良野町）が開館。80歳を超えた今もなお精力的に日々制作に励んでいます。

本展は、後藤純男美術館開館15周年、後藤の画業60年を記念して開かれるもので、同館の所蔵品を中心に、画家が生涯追求している3つの主要なテーマである北海道風景、大和路、中国風景を描いた大作約40点を展覧いたします。

「風景の本性」を描くために厳寒期に取材し、現代の日本画として余白の代わりに抽象表現を取り入れた北海道風景。後藤の代名詞とも言える大和の寺院風景では目に見えぬ神仏の存在をも描き切り、中国を題材とした作品では、悠久の歴史を感じさせるスケールの大きな作と、時間が止まったかのような長閑な田園風景を描き、作域の広がりを見せています。いずれのテーマも自然の移り変わりを描きながら、森羅万象に宿る仏性を見つめ、人知を超えたものへの畏敬や信仰をかたちにした後藤自身の心象風景です。絵筆に込められた60年にわたる後藤の祈りをご体感ください。

〈残照〉1972年 東京国立近代美術館蔵

〈秋晴れ（湯州）〉1984年　後藤純男美術館蔵

〈旭光紫禁城〉1984年　後藤純男美術館蔵

〈幽境妙音〉1966年 東京都現代美術館蔵

〈山門雨後〉1974年 千葉県立美術館蔵

〈十勝岳連峰〉2002年　後藤純男美術館蔵

後藤純男美術館館長・行定俊文氏によるギャラリートーク
- 2012年1月8日（日）午後2時から／そごう美術館展示室内
- 参加費：無料（別途入館料が必要となります）

学芸員によるギャラリートーク
- 毎週土曜日午後2時から
- 参加費：無料（別途入館料が必要となります）

そごう美術館

横浜駅東口
そごう横浜店6階

郵便番号 220-8510 横浜市西区高島2-18-1
電話045（465）5515（美術館直通）
http://www.sogo-gogo.com/museum/